

1 生徒の実態（実態把握・調査結果の分析）

(1) 生徒の実態

- 1年生：積極的に取り組んでいる。グループで討議させると、互いに教えあう様子がよく見られる。一方、理解が遅い生徒が目立つため、今後配慮が必要である。
- 2年生：真面目に取り組む生徒とそうでない生徒に二分しており、顕著な学力差がある。概して、1年次の学習内容が曖昧な生徒が多いため、逐一復習する必要がある。
- 3年生：真面目に取り組んでいる。やや消極的ではあるが、自ら問題を解こうとする姿勢が見えてきた。

(2) 調査結果の分析

- 1年生：忘れ物等無く授業に集中している様子である。今後「数学嫌い」の生徒が生まれないように、理解の確認を行い、補充できるようにしていきたい。
- 2年生：授業に集中できていない生徒が一定数いる。内容の難易度や授業内外で一人ひとりにより丁寧に教えていくことが必要である。
- 3年生：ほとんどの生徒は授業に集中できている。一方、学力の定着に課題があり、復習問題の正答率が低い傾向にある。

2 指導上の課題

- 1年生：1学期は基本的な計算能力に課題がある生徒は多くなかった。また、授業のペースに生徒が慣れてきたため、今後適切な活動を多く含んだ授業を展開していき、数学の楽しさが伝わる授業にしていきたい。
- 2年生：理解不足の生徒もいるため、一人一人に目を向け、各生徒に合った指導を徹底する。特に、分からない点をつぶさに聞き、質問できる雰囲気を作る。また、全体に対して、基礎的な計算能力を上げるために、計算練習を繰り返し行う必要がある。
- 3年生：基礎的な内容を充実させる必要がある。2年生同様、どの単元であっても計算練習を繰り返し用意するとともに、宿題以上の家庭学習ができるように、授業で紹介していく。

3 授業改善の視点とその方策

三学年ともに、既習事項をよく振り返り、基礎基本を徹底することと、数学が面白いと感じられるような教材を用意していくことの二点を重視していく。既習事項を理解するためには、その分野の基礎基本が身に付いていることが必要である。そのため、場合によっては小学校算数科を例に出す等の工夫をしていく。また、数学が苦手という生徒を減らすため、逐一質問に丁寧に答えていき、数学に対するモチベーションを生んでいきたい。また、生徒が自ら考えてみようと思える教材を開発することで、数学に対するハードルを下げしていきたい。

具体的には、授業の内外で以下のように取り組んでいく。

- 授業の開始時に計算問題に取り組み、既習事項の理解を進める。また、何が自分にとって弱点なのかを理解させ、家庭学習の一助とする。
- 問題の結果だけでなく、解く過程を評価するために、様々な解答や解き方が考えられる教材の開発を行い授業実践する。
- 普段の授業において、問題解決的な展開や話し合い等で自分の言葉で表現できる場面を作る。

4 その他

- ・定期考査前に補習教室を開講し、生徒が自主的に学習する場を提供する。
- ・ドリル学習を通じて、計算能力の確認を行う。